

令和7年度 公益財団法人日本いけばな芸術協会事業報告

(1) 事業の概要

公益財団法人日本いけばな芸術協会は、流派の壁を越えた、いけばな芸術の普及活動に取り組む者を会員としており、事業は、会員と理事会、事務局の協働により実施している。

1 展覧会

1-1. 本部展

「第58回日本いけばな芸術展」を令和7年5月21日（水）～26日（月）の会期で、日本橋高島屋 S.C. を会場として開催した。協会の会員である各流派の家元等わが国のいけばな界を代表する専門家142流派663名が作品を披露し、24,824名の入場者に、芸術としてのいけばなに触れ、興味を持ち理解していただく機会となった。また、会場通路には、「いけばな文化史年表」と日本語と英語訳をつけた「時代におけるいけばなの花型」、「協会のあゆみ」のパネルを展示し、いけばな芸術に関する普及・振興を図った。

5月24日（土）には、「こどもいけばな体験教室」を特設会場において開催し、小学1年生～中学3年生の25名が参加した。協会発行の「こどものいけばな」をテキストに、直接花に触れいけることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。

1-2. 地区展

令和7年度は実施せず。

1-3. 特別企画展

「日本いけばな芸術特別企画 in 大阪・関西万博」を令和7年10月7日（火）～11日（土）の会期で、大阪・関西万博会場内ギャラリーEASTにて開催した。本展は、5日間の開催で23,225名の入場者を記録した。会場壁面には、「いけばな文化史年表」と「時代におけるいけばなの花型」のパネルを展示、また公式スタンプラリーに合わせた「協会スタンプ」を作成した。大阪・関西万博の盛り上がりが最高潮に達したタイミングでいけばな文化を世界に向けて発信いけばな芸術に関する普及・振興を図った。

また、「いけばなの日」である、6月6日（金）に「いけばな体験教室」を大阪・関西万博会場内フェスティバルステーションにおいて開催し、40名が参加した。直接花に触れることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。

2 調査、資料収集

令和7年度は実施せず。

3 会誌・事務局報の発行、WEBサイトの運営

会誌「花」第50号を令和7年8月20日に発行した。令和6年認証式、第24回いけばな褒賞杯授与式、第57回日本いけばな芸術展、第9回日本いけばな芸術信越展等に関する報告、令和7年理事会・評議員会報告、会計書類等を掲載し、会員への周知がはかれた。作成部数は3,900部である。WEBサイトから申し込みのあった一般の希望者に会誌（4冊）を提供した。

「事務局報」第7号を令和7年4月20日に、第8号を12月20日に発行し会員相互の情報を提供した。作成部数は各4,000部である。

WEBサイトの運営では、いけばな芸術に関する知識や展覧会に関する情報発信、「6月6日はいけばなの日」の周知に関する情報発信、いけばなに関する動画や作品の紹介、加入流派の紹介、情報公開（令和7年度事業計画、令和7年度収支予算書、令和6年度事業報告、令和6年度会計報告）の更新をした。

4 いけばな普及に関する出版物頒布

「こどもいけばな」「はじめよう！いけばな」の頒布により、いけばな芸術の振興を図ることができた。

「こどものいけばな」は、令和7年度新入会者、いけばな体験教室参加者に頒布した。また WEB サイトからの希望者には一冊330円で販売し、いけばなの普及活動ができた。「こどものいけばな」の令和7年の頒布数は1,262冊（うち販売は1,068冊）で令和7年12月末の残部は10,498冊である。

「はじめよう！いけばな」は、令和7年度新入会者、いけばな体験教室参加者に頒布した。また WEB サイトからの希望者には一冊550円で販売し、いけばなの普及活動ができた。「はじめよう！いけばな」の令和7年の頒布数は786冊（うち販売は595冊）で令和7年12月末の残部は3,610冊である。

5 いけばな普及活動事業

ながさきピース文化祭2025（第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭）「いけばなの祭典」

ベネックス長崎ブリックホールにおいて、招待出品としていけばな作品を展示し、幅広い世代に向けたいけばなの普及発展と長崎県会員、長崎県におけるいけばな団体とのつながりを深めることができた。また、いけばな体験教室には、協会発行の「こどものいけばな」「はじめよう！いけばな」をテキストとして提供し、直接花に触れることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。

農林水産省 YouTube チャンネル「BUZZ MAFF」における「花いっぱいプロジェクト」の動画投稿

農林水産省の依頼により、いけばなの動画制作に協力し、広く一般に向け、いけばな芸術への関心と理解を広めることができた。

農林水産省「和の空間」いけばな展示

農林水産省の依頼により、農林水産省別館玄関ホールの組立式茶室「和の空間」において協会所属流派による作品展示を行い、いけばな芸術への関心と理解を広めることができた。

大阪・関西万博での迎賓館展示

公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会の依頼により開催期間を通し、大阪・関西万博会場内の迎賓館でいけばな插花を行った。世界各国の賓客が訪れる迎賓館の入口にていけばな展示を行い、日本の伝統文化を伝え、いけばなの普及啓発を行うことができた。

大阪高島屋での大阪・関西万博 PR 展示

大阪・関西万博の会期中に大阪高島屋にて大阪・関西万博の機運醸成を図ることを目的とし、いけばな作品を展示した。国内外を問わず、幅広い世代に向けたいけばな芸術の普及啓発に貢献した。

大阪・関西万博での横浜国際園芸博覧会 PR 展示

農林水産省、GREEN×EXPO 協会より、大阪・関西万博の会期中に行われる「2027年国際園芸博覧会展、未来につなぐ花き文化展示」において作品展示の依頼があった。2027年国際園芸博覧会の機運醸成に貢献するとともに、同じく参画していた盆栽協同組合との協力により花き文化の普及啓発を行うことができた。

船場地域におけるいけばな体験教室

船場地域において伝統文化の振興を行う「船場博覧会」において、夏季については船場地域にあるボンドのコンシ（株）の旧社屋である旧小西家住宅でのいけばな展示の依頼があり、デモンストレーションと作品展示を行った。秋季については、いけばな体験教室を開催し、直接花に触れることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。いけばな芸術の新たな、普及啓発の機会となり、継続的な開催が見込まれている。

農林水産省主催「観桜会」におけるいけばな展示

農林水産大臣主催の観桜会にて、いけばな展示の協力依頼があった。観桜会は、平成30年以降、7年ぶりの開催となり、在京大使をはじめ、多くの方々に、日本の伝統文化を伝えることができた。

第34回森と花の祭典「みどりの感謝祭」式典挿花

農林水産省の依頼により、「みどりの感謝祭式典」においてステージ上のいけばな装飾を行った。実際にいけばな芸術に触れる機会を提供することができた。

大阪・関西万博いぐさブースでのいけばな展示

農林水産省より依頼があり、大阪・関西万博の会期中に行うイベント「RELAY THE FOOD～未来につなぐ食と風土～」内のいぐさブースにおいていけばな装飾を行い、国内外を問わず、幅広い世代に向けたいけばな芸術の普及啓発に貢献した。

ホテルリソルトトリニティ大阪いけばな体験教室

ホテルリソルトトリニティ大阪より宿泊者に向けた「いけばな体験教室」の依頼があった。協会からは講師の派遣と道具などの貸出を行い実施した。国内外の方が、直接花に触れることで日本の伝統文化であるいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。

6 助成（非応募型）及び寄附

豊かな人間性に根ざしたより良き社会の形成に寄与するため、不特定多数の者の利益の増進に取り組む団体に対して助成（非応募型）及び寄附を行った。寄附先及び金額は、公益社団法人日本動物福祉協会 700,000 円、公益財団法人がん研究会 200,000 円、公益財団法人高松宮妃癌研究基金 200,000 円、合計 1,100,000 円を寄附した。

その他の事業（相互扶助等事業）について

他1 認証式

「令和7年認証式」を、令和7年5月21日（水）ホテルニューオータニ東京「鳳凰の間」を会場に開催した。名誉特別会員63名・特別会員112名・正会員132名が会員認証を受け、いけばな関係者221名の参加のもと、流派を超え交流を深める事ができた。参加者から飲食代等として19,800 円の実費を徴収している。

他2 周年事業

令和7年度は実施せず。

法人

第25回いけばな褒賞杯授与式

「第25回いけばな褒賞杯授与式」を、令和7年5月21日（水）ホテルニューオータニ東京「鳳凰の間」を会場に令和7年認証式と併催した。名誉総裁常陸宮妃殿下より「おことば」を賜り、令和7年度に満80歳以上となる役員及び昭和63年度までの入会で満86歳以上の会員27名が拝受した。

協会パンフレット作成

協会パンフレットの在庫が少なくなったため、表紙の色の変更、花型作品写真の差し替えなどを行い、新たに20,000部作成し、第58回日本いけばな芸術展より、配布を開始した。